

山形県青年の家 年報

研修のあゆみ

令和7年度



目 次

はじめに ～「山形県青年の家」の使命～

1 令和7年度 運営のあり方	1
2 事業	
(1) 青年の家コーディネーターボランティアサークル「nicoこえ」の運営 [小児がん支援NPO団体「山形Make Lemonadeプロジェクト」実行委員会]…	2
(2) 出前講座	5
(3) ボランティア指導者研修会	6
(4) 青少年ボランティアセミナー	7
(5) ボランティアフェスタ2025	8
(6) 防災×若者フォーラム2025	9
(7) 持続可能な社会づくり体験1「SDGs×スポGOMI」	10
(8) 持続可能な社会づくり体験2「SDGs×地域文化」	11
(9) 若者自立支援体験活動1「スポーツでわいわい」	12
(10) 若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」	13
(11) 家庭教育支援事業1「青年の家 de 寺子屋」	14
(12) 家庭教育支援事業2「親子 de アート」	15
(13) 共生社会推進事業「スポーツ de SDGs」	16
3 主管事業	
(1) 山形県青少年地域活動・ボランティア活動推進会議	17
(2) 地域をつくるリーダーセミナー	18
(3) YYボランティアビューロー	20
○HP（ホームページ）の管理・運営	
○YYボランティアサークル支援	
○夏の体験ボランティアキャンペーン	
○高校3年生のボランティア活動実態調査	
4 組織および職員構成	22

表紙 写真 上段左：『ボランティア指導者研修会』、上段右『SDGs×スポGOMI』
中絶左：『nicoこえによるレモネードスタンド』、中絶右『防災×若者フォーラム』
下段左：『青少年ボランティアセミナー』、下段右『親子 de アート』



山形県青年の家の所旗のデザイン（昭和44年9月に制定）

山形を担って立つ青年の姿を象徴化したもので、山形の黄緑は、「希望」をあらわし、
青年の姿を象徴化した青は、「若さ」をあらわしたものの。

表紙の文字は、第42代所長赤井芳賀寿によるもの。

はじめに ～「山形県青年の家」の使命～

所長 赤 井 芳賀寿

本年度より山形県の「第7次山形県教育振興計画」がスタートしました。これまでの計画における、個々の「いのち」を大切にしたい調和のとれた人間力育成に加え、一人ひとりのウェルビーイングの実現と、多様性を尊重した持続可能な社会を目指す「県民みんなで挑戦する教育」へと目標が進化いたしました。この目標には、人口減少等の困難な課題に直面する中でも、誰もが尊重され、体験・探究・協働活動に前向きに取り組める社会を築こうという強いメッセージが込められていると受けとめています。この目標を達成するには、学校・社会・家庭でのそれぞれの教育が統合し、福祉とも連携して生涯学び続ける環境を整えることが不可欠であると考えます。本所は、県の青少年教育施設として多様な研修機会を提供し、地域とつながるボランティア活動を中心とした交流体験を通じて、次世代の山形を担う青少年を育成することをミッションとしております。この想いの下に本年度取り組んだ研修事業での状況3点を以下に報告いたします。

1. 青少年ボランティアサークルの育成と支援

本年度は、本所が支援する2つのサークルの組織体制を見直し、活動の自律性を高める取り組みに注力いたしました。中高生主体の「nicoこえ」と、その卒業生らによる「nicoぷらAd」を独立した組織として再編して若者の自発的な意思に基づく活動を促す環境を整えました。また、小児がん支援NPO団体「山形Make Lemonadeプロジェクト実行委員会」のYYボランティアへの加入により組織への支援強化を図りました。今後はメンバー構成の変化に対応しつつ、各団体が自走できる「持続可能なモデル」の構築をファシリテートしていきます。この活動が「YYボランティア」に加入する全団体のロールモデルとして定着していき、県内全体の中高生を中心としたボランティア活動の活性化につながることを期待しています。

2. 出前講座と各事業の総括

出前講座では、アイスブレイキング等でのコミュニケーション支援が好評でした。今後は年度初めの依頼が集中して対応しきれなかった課題の解決に向けて実施時期の調整し、新たな実施スタイルとなる「レモネードスタンド」の周知をも強化してまいります。主催事業では、参加ターゲットを明確化したワークショップ重視の内容の結果、満足度は9割を超えました。「夏の体験ボランティア」では中学生の参加増という次世代育成への確かな手応えを得ることができました。また、「ボランティアフェスタ」では、学校の枠を超えた交流の場として芋煮会交流など特色ある企画を運営し好評でした。さらに「スポGOMI」や「防災フォーラム」を通じ、地域貢献や共助の意識を醸成する体験型講座も計画どおり実施してリピーターの確保にも繋がっております。主管事業である「地域をつくるリーダーセミナー」は、高校生が地域課題に向き合う大切な機会であると考えます。今後は参加のための交通手段の地域間格差が課題です。

3. 今後の運営方針と情報発信の強化

「持続可能で」かつ「斬新な」事業運営にむけて今年度実施の事業を総括し、本所の使命を確認しながら来年度の研修を計画しております。また、協働活動の輪をさらに拡大するために、SNSやウェブサイト等を効果的に活用し情報の到達率を高めたいと考えています。

結びに、築58年を迎えた本所施設ですが、今後も魅力ある事業提供のためには将来を見据えた運営方針の確立が不可欠と考えます。本所は「ボランティア中央センター」として、県の青少年ボランティア活動を最大限に推進し、社会教育活動のさらなる発展に貢献してまいります。

1 令和7年度 運営のあり方

I 基本理念 人と人とのつながりに青少年の学びを創出する。

II 教育目標

多様な活動や交流をとおして持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

III 運営方針

- 1 人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。
- 2 学校及び関係機関・団体との連携を通じて、社会教育と学校教育をつなぎ、次代を担う人づくりに努める。
- 3 安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

IV 運営の重点

- 1 研修プログラムの開発・提供（主催事業）
 - (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
 - ① 青少年ボランティア活動及び指導者への支援の充実
 - ② 青少年の社会貢献に係る興味関心を学びと実践につなげる研修の提供
 - ③ ボランティアサークル「nicoこえ」の活動充実
 - ④ 出前講座の提供拡大
 - (2) 青少年による地域活動の支援に係る研修
 - ① 地域のよさや課題を捉え、地域の人との協働につながる研修の提供
 - ② SDGsを体験的に学ぶ機会の提供
 - ③ 地域社会の防災・減災に主体的に行動できる青少年を育成する研修の提供
 - (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
 - ① 特別な事情を有する青少年の自立支援に資する体験機会の提供
 - ② 子どもと一緒に参加でき親子に笑顔が生まれる家庭教育支援及び共生社会推進事業
 - ③ スポーツやアートなど多様な研修プログラムの開発・提供
- 2 青少年地域活動・ボランティア活動推進事業（主管事業）
 - (1) 県青少年地域活動・ボランティア活動推進会議の主催
 - (2) 地域をつくるリーダーセミナーの運営
 - (3) YYボランティアビューローの運営
 - ① 中高生の心に届ける「夏の体験ボランティア」キャンペーンの展開
 - ② HPの管理・運営、ボランティア活動実態調査など、学校・市町村・関係団体等への支援に資する情報収集と提供
- 3 関係機関・団体等との協働の推進
 - (1) 研修プログラムの質の向上に資する多様で新しい関係者との協働の推進
- 4 青少年のICT環境に対応した広報の推進
 - (1) 青少年に「伝わる」「つながる」ことを重視した広報の充実
- 5 施設の有効利用と安全管理
 - (1) 県民の多様なニーズに応えられる施設運営と広報
 - (2) 定期的な施設・設備の安全点検による事故防止
 - (3) 熱中症を含む防災・防犯に資する安全管理マニュアル点検改善と各種訓練の実施
- 6 次年度以降の業務充実に向けた取組み
 - (1) 社会の変化に対応した機能強化
 - ① 青少年に関わる現代的課題の研究
 - ② ロールモデルとしての「nicoこえ」の成果と課題の共有

2 事業

(1) 青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」の運営 [小児がん支援NPO団体「山形Make Lemonadeプロジェクト」実行委員会]

【nicoこえ】

1 ねらい

- (1) 本サークルは、これまでのYYボランティアの良さ伝統を重んじるとともに、新たな取り組みを実践する。現代にふさわしいYYボランティアの在り方を模索し、サークルのロールモデルを構築することを目指す。
- (2) 青少年の社会貢献意欲や自己成長の希望に応えるため、継続的かつ多様な活動や交流機会を提供する。人と人とのつながりから学ぶ青少年の拠点施設としての役割を果たすとともに、本所研修課職員の専門的知識・技術および本所の人的ネットワークを活用し、質の高いボランティア活動を実現する。
- (3) サークルへの継続的支援を通じて、指導者（伴走者）が得た指導に関する情報や知見を本所の研修事業へ還元し、研修事業の質の向上を図る。

2 募集期間・対象

募集期間：通年

対象：中学生、高校生（天童市エリアでの活動に参加できる方）

3 メンバー（R8/2/26現在、計41名）

代表 前期：下山ひなの（山形日大高校3年）
後期：黒田 涼平（東桜学館高校2年）
副代表 前期：渡辺 果歩（山辺高校3年）
後期：土橋 晃生（東桜学館高校2年）
会計 通年：渡辺 紗矢（「nicoぷらAd」が担当）

【高校生メンバー（32名）】

安達和樺・水戸部綾香（山形西高）、酒巻由水香・吉田心海（山形北高）、中村優希（上山明新館高）、早坂美光・渡辺果歩・木村万葉・天野愛唯・佐藤風紗・濱田明日菜・井上愛結・多田美結・結城夏音・近藤美音・佐藤京花・菊地祐芽（山辺高）、相澤一輝（寒河江高）、黒田涼平・土橋晃生・奈良部日向（東桜学館高）、豊田聡介（霞城学園高）、工藤葵（城北高）、木村颯大（山形学院高）、下山ひなの・渡部晴斗（日大山形高）、鈴木空（創学館高）、中林恋希・砂田雪乃・荒井奈々・佐藤利里娃（惺山高）、齋藤舞美（東海大山形高）

【中学生メンバー（9名）】

天野花菜（山形二中）、鈴木うた（山形三中）、

土橋怜生（山形七中）、荒木咲良（山形九中）、小林紗弥（高楯中）、折原颯雅（天童一中）、小座間暁花（天童二中）、鎌田果歩（天童三中）、後藤悠珠（大富中）

4 名称由来、活動方針等

令和4年度「研修のあゆみ」に記載

5 おもな活動

- (1) 小児がん支援（レモネードスタンド）

「山形Make Lemonadeプロジェクト」公式サポーターとして各地でレモネードスタンドを開催。第1回は令和4年10月9日に実施して以来、これまでに通算45回開催してきた。令和7年度は、5月18日「グモ天祭」で開始し、3月22日「山形ワイヴァンズ戦」までに計14回実施し、小児がん支援の輪を広げた。



- (2) 他のYYボランティアサークルとの交流
「寒河江市ゆめはーとなつまつり」や「MYボランティアサークル交流会」へ参加し、村山地区の各サークルと連携して企画を運営した。最上地区ヤングボランティア交流会では、最上地区の各サークルの出店企画を見学・体験し、企画力の向上につなげた。



【山形Make Lemonadeプロジェクト】実行委員会

1 ねらい

- (1) 本実行委員会は、「小児がん」と「レモネードスタンド」の意義を山形県民に広く周知することを目標とする。県内各地でレモネードスタンドの開催を促進し、支援金を募ることで、山形県内の小児がん患者とその家族へ直接的・間接的な支援を継続的に提供する体制を構築する。
- (2) レモネードスタンドを青少年にとってのボランティアの入口（きっかけ）と位置づけ、参加を通じて若者が主体的に活動に取り組める場を提供するとともに、その運営ノウハウや手法を他のボランティアサークル等の参考となるロールモデルとして示す。

2 募集期間・対象

募集期間：通年

対象：中学生以上で、プロジェクトの運営に興味がある方

3 メンバー（R 8 / 2 / 26現在、計13名）

プロジェクトリーダー：

平田 寧々（県立保健医療大学2年）

高校生リーダー

前期：安達 和樺（山形西高校3年）

後期：天野 愛唯（山辺高校2年）

【中高生メンバー（8名）】

安達和樺（山形西高）、天野愛唯（山辺高）、工藤葵（城北高）、下山ひなの（日大山形高）、荒井奈々（惺山高）、天野花菜（山形二中）、小林紗弥（高楯中）、後藤悠珠（大富中）

【成人メンバー（5名）】

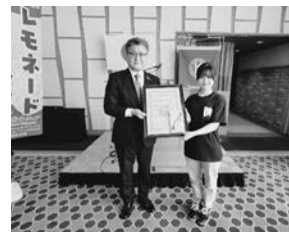
平田寧々（県立保健医療大学）、今野拓真（酒田調理師専門学校）、佐々木真（社会人）、新田ゆい（社会人）、天野静枝（社会人）

4 おもな活動

- (1) 病院・患者等への支援品・支援金の贈呈
昨年度の「山形Make Lemonadeプロジェクト（以下 YMLP）2024」で得た支援金により購入した鯉のぼり飾り、夏祭り用品、食料等の支援セットを、4月・7月・8月・12月に山形大学へ届けた。今期で3期目となる「YMLP2025」では、各団体・個人・企業から合計1,913,967円の支援金が寄せられた。令和8年2月19日にその一部の約90万円を山形大学医学部小児科学講座へ寄付した。残額は、患者家族への食料支援等に約70万円、YMLPロゴマークの商標登録やポスター制作などの運営費に約30万円を充てる予定である。



- (2) 小児がん支援お菓子の共同開発・販売
菓子店「戸田屋正道」(山形市) と共同で、レモン味の水ようかん「檸檬香（ねねか）」を開発し、期間限定（8月18日～12月31日）で販売した。販売価格は1個300円で、そのうち30円を寄付とする方式とした。期間内の販売個数は3,568個、寄付金は約107,040円となり、(1)の支援金の一部に充当した。
- (3) 山形ワイヴァンズと連携した小児科病棟訪問
令和7年8月8日にプロバスケットボールチーム「山形ワイヴァンズ」とコラボし、選手とともに小児科病棟を訪問した。レクレーションやお絵かき、サイン・記念撮影などを通じて入院中の子どもたちと交流した。
- (4) 文翔館ゴールドライトアップ（啓発活動）
世界小児がん啓発月間中の令和7年9月9日、山形大学医学部小児科と協力して文翔館をゴールドにライトアップし、地域全体での啓発を図った。
- (5) 助成金等
庄内銀行ふるさと創造基金
- (6) 表彰
山形キワニスクラブ 社会公益賞



5 成果

本期はレモネードスタンドに加え、プロチームとの病棟訪問、文翔館のゴールドライトアップ、各種受賞など多彩な活動を実施した。これらが新聞やニュースで取り上げられ、小児がん支援の認知拡大と寄付・参加の増加につながった。

6 課題

4期目となるYMLP2026からは参加団体が自ら商品を調達し、寄付金のみをYMLP口座へ振込む方式に変更となった。開催は容易になるが、運用変更に伴う問い合わせ増加や混乱が予想されるため、マニュアル整備と周知・サポート体制の強化が必要である。

(2) 出前講座

1 目的

学校やボランティアサークル等へのアイスブレイキングを実施し、良好な集団づくりを支援する。また、ボランティア講座を実施し、ボランティアの重要性・意義を啓発し、活動を活性化することを目的としている。

2 実施内容

(1) アイスブレイキング

以下の内容を組み合わせながら、目的と時間に合わせてプログラムを実施。

- ・自己紹介
- ・上下、三角体操
- ・後だしジャンケン
- ・ひたすらジャンケン
- ・木の中のリス
- ・バースデイリング
- ・相性抜群共同作業
- ・フワフワ魔法の絨毯
- ・ペーパータワー
- ・名前パスリレー
- ・共通点グランドスラム
- ・前、後ろ、右、左
- ・共通ビンゴ
- ・距離が縮まる魔法の質問
- ・セブンイレブンジャンケン
- ・ちぎってつないで新聞リレー

(2) ボランティア講座

- ・ボランティア全般に関すること
- ・レモネードスタンドに関すること



アイスブレイキングの様子

3 実施実績

月	団体名	人数
4	県立山辺高校 1 学年	87
	県立明新館高校 1 学年	205
	県立天童高校 1 学年	107
	県立谷地高校 1 学年	43
	県立寒河江工業高校 1 学年	74
	美しい山形・最上川フォーラム	250
6	藤島地区青少年ボランティアサークル「Ben's」	27
	県立上山明新館高校JRC	67
	村山教育事務所	74
8	尾花沢社会福祉協議会	22
10	県立寒河江工業高校保健委員	19
11	県立新庄北高校・新庄南高校	112

4 成果と課題

入学当初にアイスブレイキングを行うことで、良好な集団づくりの支援を行うことができた。実施前後で、生徒の顔つきや集団の雰囲気が変わり、コミュニケーションがとりやすくなったことがうかがえた。先生方も一緒に入ってやることで、生徒は安心して受講できる。講座前のアイスブレイキングでは、講座の目的に沿って実施することで、その後の講座をスムーズに実施することができた。初対面でも精神的に安心な場を作ることにより、話し合いに深みが出た。

ボランティア講座では、ボランティアの重要性や意義をわかりやすく説明することができた。また、レモネードスタンド実施前に、レモネードスタンド講座の依頼がある。ボランティアやレモネードスタンドについて、事前に知ることにより、活動に深みがでる。

4 月当初の依頼が多く、受けられないことがあった。早めの調整が必要であるが、年度末、当初で忙しい時期であり、今後検討や工夫が必要である。

(3) ボランティア指導者研修会

1 ねらい

- (1) ボランティア指導者が一堂に会して親睦を深めるとともに情報交換を行う。
- (2) 山形県の青少年ボランティアを学び、考える。
- (3) ボランティア指導における喜び、楽しみ、苦勞、不安、課題等を共有し、今後の指導の活力を生み出すとともにウェルビーイングを創出する。

2 期日・会場

令和7年5月23日(金)・山形県青年の家

3 参加対象

県内の中高生、大学生、ボランティアサークル指導者、福祉関係者、地域防災関係者など

4 日程

- 9:45 オープニング
9:50 アイスブレイキング
10:20 講話「7教振スタート!って…なんだ?ズバリ解説」
講師:矢口 暁子 氏(県教育局生涯教育・学習振興課研修主査)
10:50 館周辺・館内探検「織田信長からパワーをもらっちゃおう」
12:00 昼食・休憩
12:45 ワークショップ
I:「こんなことやってみた、やってみよう」
II:「0→1、1→2…さあ、やってみよう!」
講師:石井 貴之 氏(山形北高等学校教諭)
14:45 茶話会「YAMASEI-Café」
15:40 アンケート入力、クロージング

5 参加者

参加者総数23名(成人23名)

6 成果・課題

- (1) 成果
 - ・アンケートの中で、「全体を通してどうでしたか?」に対して90.5%が「とてもよかつた」、9.5%「よかつた」と回答しており、参加者のニーズに基づいた内容で展開できたと思われる。

た)、9.5%「よかつた」と回答しており、参加者のニーズに基づいた内容で展開できたと思われる。

- ・矢口氏の講話では、7教振が求める地域活動とその核となるボランティア活動のあり方について確認することができた。
- ・石井氏のワークショップでは、他指導者の考えや他団体の活動を知る機会になり、参加者にとって有意義な時間となったようだ。
- ・茶話会では、参加者皆さんが笑顔で交流していただいた。人と人との繋がりや、日頃の悩み・課題等を共有して活かすことができる、大変有意義な時間であった。

(2) 課題

本所の大事な役割はボランティア中央センターである。その主要研修としてこの指導者研修は特に力を入れなければならないと考える。来年度は、指導者に最も求められるマネジメント力を養う内容としたい。限られた予算の重点的な活用も視野に「ボランティア指導者のマネジメント」について学ぶ機会を設けたい。



(4) 青少年ボランティアセミナー

1 ねらい

ボランティアに携わる青少年等のボランティアに対する理解を深め、活動意欲・知識・技術を高めるとともに、新たな活動分野について考える機会を提供する。また、ボランティア活動のネットワークをつくる。

2 期日・会場

令和7年10月19日(日)
会場：山形県青年の家

3 参加対象

中学生以上のボランティア活動に興味・関心がある方 定員30名程度

4 日程・内容

- 9:30 開会行事
9:40 アイスブレイキングで仲良くなろう
講師：青年の家
研修課長 吉田 幸宏
10:10 ボランティア活動について理解を深めよう
講師：青年の家
研修主査 高橋 良治
10:50 講義「命をつなぐボランティア『献血』について学ぼう」
講師：山形県赤十字血液センター
保科 美有 氏
12:00 昼食
13:00 体験談講話およびボランティア実践活動
「受け手の思いを聞いて、広報グッズを作ってあなたの優しさを身近な人に届けよう」
講師：山形県立北村山高等学校
佐藤真由美 氏
山形県赤十字血液センター
保科 美有 氏
15:00 振り返り・全体共有
15:20 アンケート入力・閉会行事

5 参加者

参加者総数35名
(中学生13名・高校生20名・大学生等2名)



6 成果と課題

(1) 成果

- ① 講義、体験、広報物作成を組み合わせた本セミナーは、参加者の満足度が非常に高く、献血やボランティアの重要性理解と「実際に献血、ボランティアに行きたい！」という行動意欲の向上につながった。
- ② 多様な学びの構成により知識習得から実践意欲への動線が確保され、アイスブレイキングや班活動で年代を超えた交流も促進された。
- ③ 参加者が制作した広報グッズは啓発ツールとして有効で、友人や家族への周知を通じてさらなる参加喚起が期待できる。
- ④ 今年は中学生の参加が例年より増加し、教員へ直接開催要項やチラシを案内したことが中学生参加増に寄与したと考えられる。

(2) 課題

周知が特定の学校からの紹介に偏り、参加校・参加学年が限定されている。SNSや公式HP等多様なチャンネルで若年層への継続的発信を強化する必要がある。



(5) ボランティアフェスタ2025

1 ねらい

- (1) ボランティア活動に携わる青少年の交流を促進する。
- (2) 明日のボランティア活動を創造する気概を育む。
- (3) 青少年ボランティア活動へのモチベーションを高める。

2 期日・会場

令和7年10月26日(日)・山形県青年の家

3 参加対象

YYボランティア登録サークルを中心とした県内ボランティア団体および中学生以上のボランティア活動に興味がある方

4 日程

- 9:30 開講式
9:40 講話「ボランティア活動の先に広がる世界を想って」
講師：皆川 雅仁 氏
(秋田大学教育文化学部非常勤講師)
11:10 ワークショップ1
芋煮会交流(含：昼食・休憩)
13:10 ワークショップ2
明日のボランティアを創造しよう
講師：菅谷内 敦 氏
(県教育局教育政策課企画調整専門員)
＞ボランティア活動実践報告
＞7トークミーティング
15:30 アンケート入力、写真撮影
15:40 閉講式

5 参加者

参加者総数24名(高校生20名、成人4名)

6 成果・課題

- (1) 成果
 - ・秋田大学の皆川雅仁氏による講話「ボランティア活動の先に広がる世界を想って」では、「計画された偶然(ブランドハプスタンス)」という考え方が紹介されました。「日々の小さな経験や出会いが、未来の自

分につながる」というお話に、多くの参加者が感銘を受け、これからの活動に向けたモチベーションを大きく高めることができました。

- ・山形県教育局の菅谷内敦氏をお招きしたワークショップでは、お互いの意見を否定しない「7トークミーティング」の手法を取り入れました。日頃の活動の悩みを共有したり、これからチャレンジしたいことを語り合ったりすることで、不安を前向きなエネルギーに変え、明日のボランティア活動のあり方をみんなで創造することができました。

(2) 課題

本来一番の対象としていた県内の青少年ボランティア団体(YYボランティア登録サークル)の参加が一部にとどまりました。他地区でのイベント等と日程が重なってしまったことが主な要因です。今後は、より多くの団体が一同に介し、一年間の活動を共有し合える「一大交流会」となるよう、関係各所と連携しながら日程調整等を行っていく必要があります。



(6) 防災×若者フォーラム2025

1 ねらい

東日本大震災後も、熊本や北海道、能登半島地震など大きな地震が発生している。また、全国各地で豪雨災害が発生するなど、自然災害の激甚化が進んでおり、ここ山形県でも大きな山火事や水害が起きており、例外ではない。日本全国において災害の発生が懸念される災害大国日本において、次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が急務である。地域社会の未来の担い手である青少年に、対話と実践を通して、「助けられる」から「助ける（共助）」への意識の転換を図る。

2 期日・会場

令和7年9月14日(日)・山形県青年の家

3 参加対象

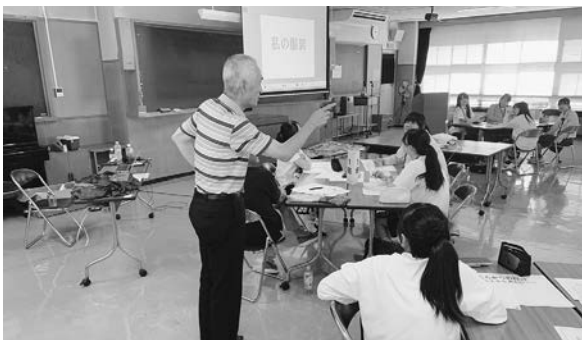
県内の中高生、大学生、ボランティアサークル指導者、福祉関係者、地域防災関係者など

4 日程

- 9:30 オープニング
- 9:40 「災間を生きる君たちへ」
～災害は忘れる前にやってくる～
(昼食休憩)
- 14:30 「あきらめない心」
～希望は絶望のど真ん中に生まれる～
- 15:30 若者からのメッセージ
「災間を生きる者として」
～命と向き合い、いのちをつなぐ～
- 16:00 振り返り、アンケート入力、クロージング

5 講師

齋藤幸男氏(元石巻西高等学校長・防災士)



6 参加者

参加者総数29名

(高校生18名、大学生2名、成人9名)

7 成果・課題

(1) 成果

- ① これからの地域の担い手である若者に、自助・公助・共助についての当事者意識を持たせ、実際の避難所運営の課題や対策を考え、共有することができた。
- ② 講師の経験をもとにした指導により、参加者の満足度が高い研修会となった。
- ③ 赤十字のリーダーシップ研修会の中に本所の防災×若者フォーラムを組み込んでいただき、6人の高校生が参加した。

(2) 課題

参加高校数および、関係団体を増やしたい。そのため、募集の工夫を行う必要がある。また、この事業を生涯教育・学習振興課の主催、青年の家主管事業にすることで中学校やその他の団体への周知がしやすくなるという意見をいただいた。



(7) 持続可能な社会づくり体験1 「SDGs × スポGOMI」

1 ねらい

- (1) 環境美化活動を通し、「地域の環境と文化の継承」に自立と共助の精神を持って行動する青少年を育成する。
- (2) 持続可能な社会づくりへの参画を目指し、コミュニケーション力・他者と協力する力・繋がりを尊重する態度・進んで参加する態度を育成する。

2 期日・会場

令和7年6月15日(日)

会場：山形県青年の家及びその周辺（舞鶴山を含む）

3 参加対象

中学生・高校生および一般県民 定員30名程度

4 日程・内容

- 9:30 開会行事
- 9:40 講話「海の豊かさを守るために私達ができること」
講師 美しい山形・最上川フォーラム 安部 明子 氏
- 9:50 アイスブレイキング・スポGOMI説明・レモネードスタンド説明
- 10:20 舞鶴山を含む青年の家周辺でスポGOMI体験
- 11:20 競技終了後、チームごとクイズの採点・計量、アンケート記入
- 11:40 閉会行事

5 参加者

参加者総数34名+運営ボランティア7名=41名
(中学生2名・高校生35名・大学生等3名・社会人1名)



6 成果と課題

(1) 成果

- ① 申し込み者49名と、スポーツGOMI拾いへの感心が高いことがうかがえた。今後も青少年ボランティア推進に向けて、体験を取り入れた講座が必要であると感じた。
- ② 中学生、高校生だけでなく、スタッフを含む成人と交流を持つことで学校では体験できない地域貢献活動になった。
- ③ 今年も青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」に運営スタッフとして入ってもらうことで、ボランティア活動への参加だけにとどまらず企画する側（裏方）の仕事も体験することができ、未来の参画者の育成にもつながった。

(2) 課題

申し込み者49名に対して、所用や友達との参加が叶わなかったとして、事前に7名ものキャンセルが出た。また、当日は2名が体調不良で欠席となった。加えて、申し込みをしたつもりになっていた生徒が1名いて、急遽参加することとなった。学校負担を減らすため、今年度から教師や大人を介さない「個人」での申込方法に切り替えてみたが、当日の参加者が変動することを考慮しておく必要があると感じた。



(8) 持続可能な社会づくり体験2 「SDGs × 地域文化」

1 ねらい

- (1) 山形の青少年に「山形の良さ」を深く理解させ、参加者それぞれの郷土愛を醸成する。
- (2) 正しい「花笠踊り」の実践をとおして、山形文化の価値と魅力を継承する。

2 期日・会場

令和8年2月1日(日)・山形県青年の家

3 参加対象

中学生以上の方

4 日程

- 9:30 受付開始
10:00 開会行事
10:10 アイスブレイキング
10:30 「銀山温泉や徳良湖をはじめとする尾花沢の魅力発信と地域おこし」
講師：平山 豊 氏
(尾花沢市地域おこし協力隊員)
12:00 昼食・休憩
13:00 体験活動「花笠を踊ろう！整調花笠踊りの実践」
講師：若柳雅文美 氏
(日本舞踊 直派若柳流師範)
15:10 集合写真
15:15 アンケート入力
15:20 閉会行事

5 参加者

参加者総数23名(高校生22名、一般1名)

6 成果・課題

- (1) 成果
 - ① 地域(尾花沢市)の持続可能性(SDGs)と伝統文化(花笠踊り)の継承を掛け合わせた多角的なアプローチにより、青少年の郷土愛を効果的に醸成することができた。特に、参加者の95%を占めた高校生たちが、地域おこし協力隊や伝統芸能の師範といったロールモデルから直接刺激を受けたことは、将来の地域活動の担い手育成という観点からも大きな意義があった。

- ② 講演「尾花沢の魅力発信と地域おこし」に対し、85.7%が「とてもよかった」と回答。「文化を守るための変化」という視点は受講者に深い印象を与え、地域の伝統がSDGs(持続可能な開発目標)と密接に関わっていることを実感させる貴重な機会となった。
- ③ 体験活動では90.5%が「とてもよかった」と回答。学校で習うものとは異なる流派の動作や、一つひとつの所作の意味を専門家から直接学ぶことで、山形を代表する文化の価値と魅力を再発見し、継承への意識を高めることができた。

(2) 課題

- ① 豪雪や流感等によるキャンセル(5人)が発生したことは、冬期事業における集客と安全確保の難しさを改めて浮き彫りにした。オンライン配信の併用などの対応策の検討が求められる。



(9) 若者自立支援体験活動1 「スポーツでわいわい」

1 ねらい

青少年の「自立」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和7年6月4日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

若者自立支援関係機関、民間支援団体に関わる青少年

4 日程

13:30 開会行事

13:35 アイスブレイキング

14:00 スポーツ (スラックライン)

講師:

(一社)日本スラックライン連盟公認
B級インストラクター 井上 祐氏
(山形県立山形西高等学校教諭)

15:30 写真撮影

15:35 閉会行事

5 参加者

参加者総数31名

(小学生5名、中学生5名、高校生2名、社会人19名)

6 成果・課題

(1) 成果

- ① アンケートの結果、「大変楽しかった」「楽しかった」との回答が85%に達した。また、96%が「今後も参加したい」「参加を考える」と回答しており、本事業が参加者にとって魅力的な体験となったことが伺える。
- ② 9歳から37歳までという非常に幅広い年齢層が参加したが、スラックライン体験を通じて、年齢の垣根を超えて互いにサポートし合い、協力的かつ意欲的に活動する姿が見られた。
- ③ 本事業への参加自体が社会との接点を持つ重要な一歩となった。普段は消極的な参

加者が積極的に挑戦し、達成感や自信を得ることで、自立支援という目的を十分に達成できた。

(2) 課題

- ① 過去の活動実績や今回のアンケート結果を詳細に分析し、参加者がより一層「楽しめる」「挑戦できる」体験活動を提供できるよう、内容のブラッシュアップを図る。
- ② スラックライン以外のスポーツへの関心も多数示されたことから、今後の事業展開において、参加者の興味・関心に合わせた多様なスポーツプログラムの導入も検討の余地がある。



(10) 若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」

1 ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにアート作品を制作しながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和7年10月15日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

支援関係機関、民間支援団体等に来所している青少年および指導者

4 日程

13:30 開会行事

13:35 アイスブレイキング

13:45 アート活動

「色×色 重ねる版画をつくろう！」

講師 城山 萌々氏、早坂 美紅氏
(天童アートロードプロジェクト)

15:30 閉会行事

集合写真・アンケート記入

5 参加者

参加者総数23名

(小学生2、中学生5、高校生2名、一般14名)

6 成果・課題

(1) 成果

① 事前のアイスブレイキングでリラックスした雰囲気を作ったことで、当初は会場に入ることをためらっていた参加者が、最後には笑顔で作品づくりに没頭する姿が見られるなど、情緒面でのポジティブな変化が見られました。

② 9歳から44歳までの幅広い年齢層が参加しましたが、専門講師や学生アシスタント、各事業所の指導員が丁寧に寄り添うことで、全員が自分だけの作品を完成させることができました。

これによりものづくりを通じた「自己肯定感」の醸成につながりました。

③ 地域・教育機関との安定した連携 地域の支援施設や教育機関（アウトースクール等）と継続して連携することで、必要としている方々へ着実に支援が届いており、ひきこもりがちな青少年の社会参加の場として定着している。

(2) 課題

① 創作活動では作業スピードに個人差が出やすいため、早く完成した方が手持ち無沙汰にならないような追加のワークショップや、待ち時間を楽しめる工夫を準備する必要がある。

② 現在の「版画」は4年継続しており定評があるが、参加者アンケートからは「自由な絵画」や「粘土細工」など、他の表現活動への高い関心も示されている。活動内容を適宜アップデートし、常に新鮮な「ワクワク感」を提供できるよう検討が必要である。

③ この「非日常」の楽しい体験を、いかにして日常生活への活力や次のステップへ繋げていくか、参加者の心境の変化をより深く捉えながらプログラムの質を高めていくことが求められる。



(11) 家庭教育支援事業1 「青年の家 de 寺子屋」

1 ねらい

- (1) 夏休み中の宿題サポート等を通して、児童の学習意欲の向上と主体的な学びを促進し、家庭での学習習慣の定着をサポートする。
- (2) 高校生や大学生など異なる世代の人々と交流することで、コミュニケーション力や協調性を養い、児童の健やかな成長をサポートする。

2 期日・会場

令和7年8月6、7日・山形県青年の家

3 参加対象

小学生（1～6年生）の児童

4 日程

- 8：40 ボランティアスタッフミーティング
- 9：00 受付
- 9：30 開校式・アイスブレイクで仲良くなるう
- 10：00 宿題タイム①
- 10：45 休憩・青年の家探検
- 11：00 宿題タイム②
- 11：40 集合写真、振り返り、閉校式
- 12：00 ボランティアスタッフミーティング

5 参加者（2日間計）

参加小学生20名

学生ボランティア9名（高校生・大学生）



6 成果・課題

(1) 成果

- ① 1日目は定員には満たなかったが、その分、児童1人に対して、1人以上のボランティアスタッフを割り当てることができ、指導が行き届いた。2日目は、定員を超える参加児童数で、参加児童3人に対し、ボランティアスタッフ1人となったが、それぞれが工夫しながら、滞りなく学習を進めてくれた。
- ② 参加児童向けアンケートをみると好評だったことが伺える。学生ボランティアの活躍が大きかった。
- ③ なかなかやる気の出ない児童が、学生ボランティアや他の児童との触れ合いを通して、徐々に学習に集中していく姿がみられた。
- ④ 学生ボランティア一人ひとりが、児童と触れ合ったり、教えたりする喜びも難しさも感じたようで、非常に良い経験をさせることができた。

(2) 課題

参加児童1名につき学生ボランティア1名を目標にして学生ボランティアの確保に努めたが、当日体調不良で欠席した者もあり、2日目は学生ボランティアひとりが児童3名の面倒を見てもらわなければならない状況となってしまった。



(12) 家庭教育支援事業2「親子 de アート」

1 ねらい

児童とその保護者を対象に、芸術活動を通して親子で共に学び、体験を通し育ち合う。

2 期日・会場

令和7年11月16日(日)
会場：山形県青年の家

3 参加対象

小学生(1～6年生)とその保護者
定員7組程度(最大21名)

4 日程・内容

- 13:00 開会行事
13:05 アイスブレイキング
「ぐるぐるくつした制作」
13:30 アート活動
「くねくねツリーづくり」
監修 石沢恵理氏
(東北芸術工科大学准教授、兼天童アートロードプロジェクト実行委員)
講師 金澤 愛理氏
森谷 佑衣氏
(東北芸術工科大学3年生)
15:40 アンケート入力・閉会行事

5 参加者

参加者総数 5組10名
(小学生5名・保護者5名)

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 家庭教育支援事業にアート活動を導入して今年で4年目であるが、毎回参加者から高い評価を得ており、今年もリピーターの親子が参加した。加えて、他の主催事業に参加した児童・保護者も参加し、参加5組のうち3組が過去に本所の事業に参加した家族であった。
- ② アンケートではアイスブレイキング、ワークショップともに全家族が「とてもよかった」と回答した。感想では「子どもが自由に考え、大人の発想にないアイデアでツリーを作る姿が見られて楽しかった」「親子で協働して作品を仕上げることができ、夢中になった」などが寄せられた。親子でじっくり制作に取り組むことで親子の絆が深まり、満足して帰る参加者が多かった。
- ③ これまで親子を対象とした本所主催事業に参加した家庭に向けて、本事業の開催要項およびチラシを直接メール送付したところ送付後すぐに1組の申込みがあった。

(2) 課題

定員7組に対し参加は5組にとどまった。周知方法の工夫、より魅力ある企画設定およびチラシ作成により参加促進を図る必要がある。



(13) 共生社会推進事業「スポーツ de SDGs」

1 ねらい

スポーツを通して、インクルーシブな社会の推進について考える。

2 期日・会場

令和7年7月5日(土)・山形県青年の家

3 参加対象

小学生(1～6年生)の児童

4 日程

10:00 開会行事

10:10 車いすバスケットボール体験

11:50 閉会行事

5 講師

車いすバスケットボールチーム

「山形I.B.Brothers」

6 参加者

参加小学生6名

7 成果・課題

(1) 成果

車いすバスケットボール体験では、車いすの操作の難しさや、車いすに乗りながらの動きの大変さを学ぶことができた。また、障がいの有無にかかわらず楽しめるスポーツがあることに気づき、参加者全員で楽しむことができた。特に、試合形式で行ったポートボールでは、参加者同士で話し合いをしながら作戦を立てて試合に臨むことで、みんなで一緒にやることの楽しさも学ぶことができた。

(2) 課題

年々暑さが厳しくなっており、開催時期の変更を含めて検討が必要である。また、20人の定員で募集したものの、最終的に6人の参加にとどまり、広報の仕方について検討する必要がある。



3 主管事業

(1) 山形県青少年地域活動・ボランティア活動推進会議

1 目的

山形県内各地区の青少年地域活動・ボランティア（通称YYボランティア）活動の状況を共有し、関係諸機関の連携と本県の地域活動・ボランティア活動の活性化について、様々な見地から意見や助言、提言をいただくことを目的としている。

2 委員（※敬称略）

松田道雄（尚絅学院大学人文社会学群教授）
井莉香純（村山地区YYボランティア指導者）
森多加志（最上地区YYボランティア指導者）
菅原 立（庄内地区YYボランティア担当者）
三瓶淳子（県社会福祉協議会地域福祉部）
小川真実（置賜地区YYボランティア指導者）
高橋陽介（ひがしねあそびあランド主幹）
沼澤欣一（県立霞城学園高等学校副校長）
石山重典（天童市立第四中学校長）
丹野 学（県立山形北高等学校長）
佐藤卓朗（県教育局義務教育課指導主事）
神尾博之（県教育局高校教育課指導主事）

3 会議

第1回会議（令和7年5月8日 リモート開催）

本所長挨拶のあと、委員の委嘱を行い、報告、協議へ移った。

報告では、初めに本会の進め方について、研修課長から説明がなされた。その後、本年度の事業計画について、県教育局生涯教育・学習振興課青少年教育主査矢口様から全体説明、中央センター、地区センターからそれぞれの事業計画について報告した。最後に高校3年生のボランティア活動の現状と課題を報告した。

協議では、ブレイクアウトルームに分かれ、「中学校、高校卒業後も地域活動・ボランティア活動等で、いかに活動を継続させるか」、「地域活動・ボランティア活動の経験率を上げるた

めの具体的な手立て」について話し合い、発表を通して情報共有した。

第2回会議（令和8年2月25日 リモート開催）

県生涯教育・学習振興課長（木村課長補佐）挨拶のあと、令和7年度山形県青少年地域活動・ボランティア活動推進事業について、県教育委員会より全体評価、本所から中央センター事業について、各地区教育事務所より地区センター事業の報告を行った。また、協議では、初めに石山委員から中学校の現状、神尾委員より高校の現状等をお話いただき、引き続き、松田委員がファシリテートし、「ボランティア活動の持続的な参加、協働、YYボランティアに対する意見交換を班ごとに行い、終了後、全体共有を図った。最後に松田委員から、中高生が来たら大人が気軽に声をかける重要性和黙っている子にも大人が声掛けし、励ましの言葉（「ありがとう」「いいね」）を送ることで参加継続につながる好循環を訴え、地域大人と学校の両輪で若者の活動を支えることが重要であると講評していただいた。



(2) 地域をつくるリーダーセミナー

【庄内会場】

1 ねらい

高校生が地域づくり活動に関心を持ち、地域の魅力を再認識して発信できる次世代リーダーに期待される資質・能力を育成するとともに、県内の高校生相互の交流およびネットワーク形成を図る。

2 期日・会場

令和7年12月7日(日)
会場：鶴岡市勤労者会館

3 参加対象

県内高等学校等の生徒会役員および地域づくりに関心のある生徒（各校3名程度）

4 日程・内容

- 10:00 開講式
10:10 青年リーダーからのメッセージ
「ワクワクの力 地域で主人公になるために」
講師 合同会社dano 伊藤 大貴 氏
東北公益文科大学3年 安藤 希祥 氏
- 11:20 フィールドワーク
「鶴岡山王商店街振興組合・阿部氏による商店街・まちなかキネマの案内のもと、地域の課題を考察しよう」
講師 鶴岡山王商店街振興組合 理事長 阿部 等 氏
- 12:30 昼食・休憩
13:00 ワークショップ
「次はあなたが青年リーダー！地域の課題に何ができる！？学校の枠を超えたアイデア会議を開こう」
講師 尚絅学院大学人文社会学群人文社会学類 教授 松田道雄 氏
- 15:20 振り返り（アンケート記入）
15:35 閉講式



5 参加者

参加者総数 高校生13名

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 青年リーダーからの講話は高評価で、具体的な行動指針が参加者の行動意欲をいっそう高める契機となった。
- ② 商店街へのフィールドワークも好評で、現地で得た気づきが午後のワークショップでの議論や具体的なアイデア創出につながった。
- ③ 他校生とのグループ活動を通じて協働力や発想の幅が広がり、本事業の目的である次世代リーダー育成および県内高校生の交流促進に資する成果が得られた。

(2) 課題

- ① JR陸羽西線の運休により最上地区からの参加校がなくなり、結果として今年も庄内会場の参加校数・参加者数が減少した点は課題である。
- ② 私立高校からの参加が少ない状況が続いており、参加促進のための個別周知などの対策を検討する必要がある。



【内陸会場】

1 ねらい

高校生が地域づくり活動に関心を持ち、地域の魅力を再認識して発信できる次世代リーダーに期待される資質・能力を育成するとともに、県内の高校生相互の交流およびネットワーク形成を図る。

2 期日・会場

令和7年12月14日(日)
会場：山形県青年の家

3 参加対象

県内高等学校等の生徒会役員および
地域づくりに関心のある生徒（各校3名程度）

4 日程・内容

- 10:00 開講式
10:10 青年リーダーからのメッセージ
「ちいさな風が まちを変える～若い世代からはじまる地域づくり実践～」
講師 そよかぜ代表 菊地 航平 氏
11:20 フィールドワーク
「グリーンモール天童商店街・小出氏による商店街の案内のもと、地域の課題を考察しよう」
講師 グリーンモール天童商店街 幹事 小出浩太郎 氏
12:20 昼食・休憩
13:00 ワークショップ
「次はあなたが青年リーダー！地域の課題に何ができる！？学校の枠を超えたアイデア会議を開こう」
講師 尚絅学院大学人文社会学群 人文社会学類 教授 松田 道雄 氏
15:20 振り返り（アンケート記入）
15:35 閉講式



5 参加者

参加者総数 32名
（高校生28名、大学生等1名、社会人3名）

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 青年リーダーからの講話は参加者の共感呼び、実践に基づく具体的な行動指針（継続して動くこと、失敗から学ぶ姿勢など）が参加者の自信と行動意欲を高めた。
- ② 商店街へのフィールドワークで現場を直接観察したことで、参加者は地域の現状や課題を肌で実感し、その気づきが午後のワークショップでの深い議論や具体的なアイデア創出に結び付いた。
- ③ 他校生とのグループワークを通じて多様な視点が交換され、協働して課題を整理・検討する力が育まれた。参加者には「自分にもできることがある」との自覚や、継続的に地域に関わる意欲が生まれ、本事業の目的達成に寄与した。

(2) 課題

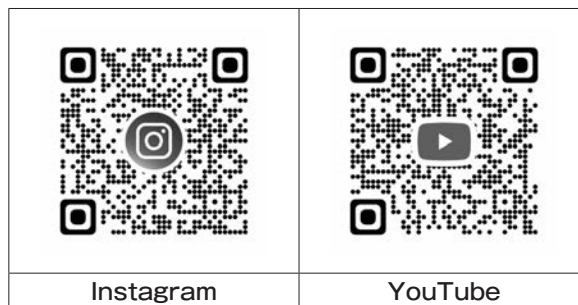
私立高校及び置賜地区からの参加が少ない状況が続いており、参加促進のための個別周知などの対策を検討する必要がある。



(3) YYボランティアビューロー

1 YYボランティアビューローについて

平成8年に創設され、県内各地区におけるボランティア活動等を活性化するための窓口を県青年の家に設置し、ボランティアに係る各種情報を収集・分析・発信し、ボランティア体験の機会を提供することを目的としている。



○HP (ホームページ) の管理・運営

YYボランティアに関わる情報を掲載するYYボランティアビューローホームページやSNS (Instagram、X、Youtube) の管理・運営を行い、YYボランティアサークルも含む青少年地域活動・ボランティア活動に関わる団体間及び、関係者の情報共有を図り、その活動を支援することを目的としている。

各地区教育事務所やボランティアサークルからの情報提供だけでなく、青年の家職員が現場に出向き取材した内容など、頻繁に更新し、情報の発信に努めている。また、ホームページへの閲覧誘導や青少年ボランティア活動の推進を目的としてSNSを利活用している。今年度、ホームページは、更新88回、インスタグラムは、投稿122回 (フォロワー 3,539、フォロー 3,738)、Xは、101件のポスト (811フォロワー、1,192フォロー)、Youtubeは、動画を15件アップした。インスタグラムのフォロワー数は、東北の青少年教育施設の中で一番多い数となっている。

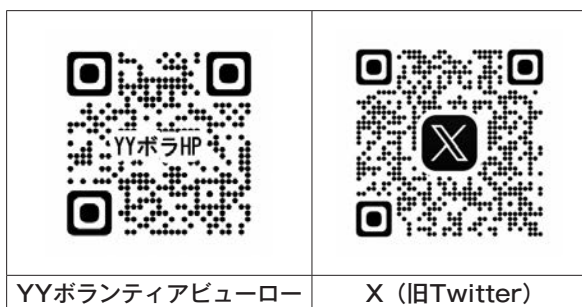
(上記数値はいずれも2026. 2. 28現在)

○YYボランティアサークル支援

青少年地域活動団体名簿を作成し、地域活動・ボランティア活動を必要としている団体等への情報提供や活動団体間の連携を推進する。また、出前講座等を開催し、中高生やサークル会員の地域活動・ボランティア活動へのきっかけづくりを支援し、活動促進へとつなげることを目的としている。

中高生へのYYボランティア活動PRのため、県内全高校へ訪問・説明し、ポスター等の掲示やボランティア活動への参加を依頼した。また、職員が学校や団体、その他の施設に向いて、様々な活動を円滑に行えるようなアイスブレイキングや県内ボランティアサークルの実践例などの紹介を含めたボランティア講座等の出前講座を実施している。

今後も、多くの団体と連携しながら、ボランティアの輪を広げる活動を続けていく。



ボランティア講座の様子

○夏の体験ボランティアキャンペーン

中高生が参加しやすい地域活動・ボランティア活動体験の機会をコーディネートすることにより、参画しやすい環境づくりと、社会力や自立心の育成を図ることを目的としている。

各サークル及び団体・施設からボランティア企画を集めて地区ごとにリーフレットとしてまとめ、県内の中学生及び高校生の全員および、市町村教育委員会等の関係機関に配布して、ボランティア体験が可能な日時や場所の情報を提供した。

今年度は、企画数、参加人数共に増加した。特に、中学生の参加が多くなり昨年度の約1.7倍となった。全体の参加者数は2,056人（昨年度1,780人）だった。

		2024	2025
企画数		179	221
参加人数	中学生	453	748
	高校生	954	1007



放課後子供教室での様子



動物愛護センターでの様子

○高校3年生のボランティア活動実態調査

県内高校（全日制）に在籍する高校3年生に対し、小学校から高校までの地域活動・ボランティア活動の実態を調査し、活動推進に関わる資料にすることを目的としている。

地域活動・ボランティア活動経験率94.6%。学校の活動として行った生徒91.8%、学校の活動以外で行った生徒68.7%。高校生が取り組んでいる地域活動・ボランティア活動分野は、「学校周辺のゴミ拾い、清掃、草取り」（25.3%）が最も多く、次いで「ベルマーク、ペットボトルのキャップ等集め」（19.4%）、「募金活動（災害時支援等学校募金、イベントでの募金活動等）」（16.0%）となっている。

学校の活動外では「地域のお祭りやイベントの手伝い（屋台引き、御囃子、踊り手、スポーツイベントの指導・サポート、受付、案内等）」の経験者率（31.1%）で最も多く、次いで「学校周辺のごみ拾い、清掃、草取り」（24.4%）、「募金活動（災害時支援等学校募金、イベントでの募金活動等）」（12.3%）となっている。

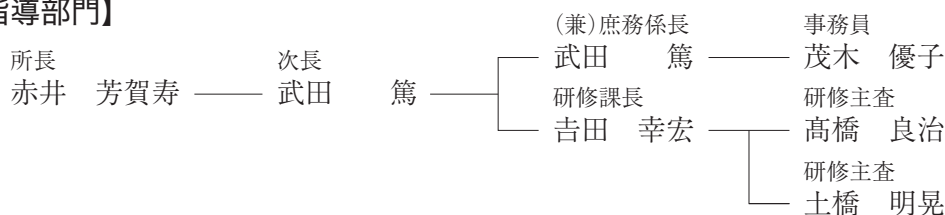
今年度から、Google formsによるアンケート回収とした（一部紙媒体）。回収率は68.4%（5,568人/8,136人）。

2 成果と課題

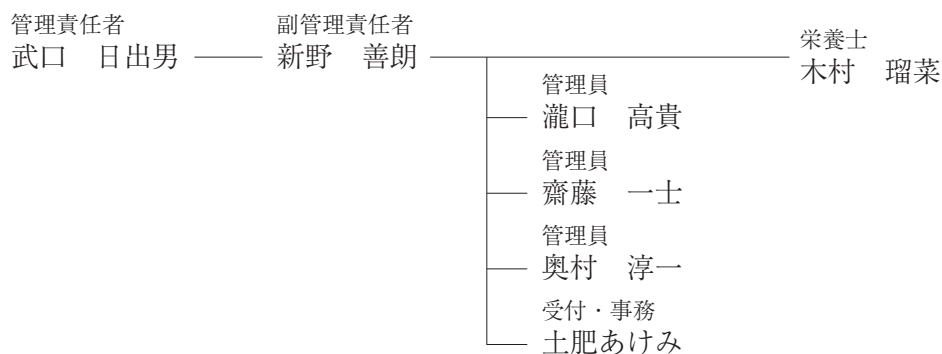
中央センターとして、地域活動・ボランティア活動を広めるために、様々な団体と連携し、情報共有を行ってきた。その成果の一つに、夏の体験ボランティアの企画数の増加、中学生・高校生の体験ボランティア参加者数の増加があげられる。これからも、多くの団体と連携しながら、団体同士や担当者同士をつなげるよう努力していく。そのために、社会教育と社会福祉協議会等をつなげていく必要性を感じる。お互いに行き来しやすいような環境をつくることは、中央センターとしての役割の一つと考える。

4 組織および職員構成

【指導部門】



【管理部門】 ※山形県青年の家管理企業体（指定管理者）



山形県青年の家 一年報— 令和7年度 研修のあゆみ

発行 令和8年3月31日
 編集・発行 山形県青年の家
 〒994-0032 山形県天童市小路一丁目7番8号
 TEL 023-654-4545 FAX 023-652-2007



〈ホームページ〉
 URL : <https://www.pref.yamagata.jp/701005/bunkyo/wakamonoseishounen/kyouikushisetsu/seinennoie/index.html>



〈YYボランティアビューロー〉
 URL : <https://seinen.jp>



〈X (旧twitter)〉
 URL : https://x.com/seinen_yamagata



〈Instagram〉
 URL : https://www.instagram.com/seinen_yamagata



〈YouTube〉
 URL : https://www.youtube.com/@seinen_yamagata

印刷 株式会社 大風印刷 営業企画事業部 天童営業所
 山形県天童市東久野本一丁目1番45号